

19ス学健第19号
平成19年11月2日

各 国 公 私 立 大 学 事 務 局 長
各 国 公 私 立 高 等 専 門 学 校 事 務 部 長 殿
各 都 道 府 県 ・ 指 定 都 市 教 育 委 員 会 健 康 教 育 主 管 課 長
各 都 道 府 県 私 立 学 校 主 管 課 長

文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課長

作 花 文、雄



(印影印刷)

運動場のラインなどに使用する石灰の取り扱いについて

標記について、別添のとおり、社団法人日本眼科医会より「学校での水酸化カルシウム（消石灰）使用禁止について」の要望がありました。

同医会が平成19年9月に実施した「学校での消石灰使用に関するアンケート調査」において、47都道府県の同会支部のうち、29支部（61.7%）の域内の学校で運動場のラインなどに水酸化カルシウム（消石灰）が使用されており、そのうち18支部（38.3%）がこの2年間に事故例を経験していることが報告されました。

また同報告書においては、水酸化カルシウム（消石灰）は、強アルカリ性で、眼に飛入すると角膜や結膜を侵し、視力に影響する障害を残す危険性がある旨が指摘されているところです。

については、学校において運動場のライン引きなどで日常的に石灰が使用されていますが、石灰による角膜等に障害が生じるなどの事故を未然に防ぐため、運動場のラインなどに使用する石灰については、より安全性の高い炭酸カルシウムなどを使用するよう、別添の「学校での消石灰使用に関するアンケート調査」を十分に参照のうえ、適切に指導方御配慮いただくようお願いします。

なお、都道府県教育委員会及び都道府県私立学校主管課においては、域内の市町村教育委員会及び所管の学校（専修学校・各種学校を含む）に対しても周知されるようお願いします。

(本件担当)

文部科学省スポーツ・青少年局
学校健康教育課保健指導係
電話 03-6734-2918

日眼医学保発 30 号
平成 19 年 10 月 18 日

文部科学省スポーツ青少年局
学校健康教育課
課長 作花文雄 殿

社団法人 日本眼科
会長 三宅謙



学校での水酸化カルシウム（消石灰）使用禁止について（要望）

運動時のライン引きに使用されている消石灰は強アルカリ性で、目に入ると角膜や結膜等を侵し、視力に関わる障害を残すこともあります。日本眼科医会は平成 8 年に全国 47 支部で実態を調査した結果、多くの地区で消石灰による眼の事故が発生している事実を確認しましたので、学校での消石灰の使用を禁止し、より安全な炭酸カルシウムなどの使用を促進するよう、日本学校保健会や教育委員会に働きかけました。

以後、都市部を中心に、危険な消石灰の使用は減少しましたが、今も改善されていない地域も少なくないようで、多くの眼科学校医から苦情が寄せられています。そこで本年 9 月に前回と同様、全国 47 支部の学校保健担当者に対してアンケート調査を行ったところ、現在も全国各地の多くの学校で、運動時のライン引きに危険な消石灰の使用が続けられ、多数の事故が発生している事実が判明しました。このことは児童生徒の安全管理において、早急に改善すべき重要な課題です。

つきましては、全国の学校での消石灰の使用を禁止するよう働きかけていただくとともに、運動時のライン引きにはより安全な炭酸カルシウムなどの材料を選択するようご指導下さることを要望いたします。よろしくご理解の上、ご高配賜りますようお願い申し上げます。

学校での消石灰使用に関するアンケート調査

社団法人日本眼科医会 学校保健部

1. 対象と方法

平成 19 年 9 月、全国 47 支部の学校保健担当者に対し以下の内容についてアンケート調査を実施した。

- (1) 学校での消石灰使用の有無
- (2) 1～2 年間での消石灰による事故例の経験など
- (3) 消石灰による事故の原因
- (4) 消石灰で視力の障害が残った症例の経験

2. 回収率

47 支部より解答があった (回収率 100%)

3. 結果

(1) 消石灰の使用の有無

使用している : 29 支部 (61.7%)

使用していない : 17 支部 (36.2%)

回答なし : 1 支部 (2.1%)

使用していると答えた 29 支部のうち、10 支部は「ほとんどの学校で使用している」地区で、4 支部は「半分ぐらいの学校で使用」、15 支部は「一部の学校で使用」されている地区であった。

(2) 消石灰の事故について (1～2 年間)

事故例があった : 18 支部 (38.3%) (51 例)

事故例なし : 27 支部 (57.4%)

回答なし : 2 支部 (4.3%)

事故例があった 18 支部のうち 11 支部が「ほとんどの学校で使用している」または「半分ぐらいの学校で使用している」地区で占められていた。2 年間での報告総件数は 51 例であったが、これは学校保健担当者が見聞しただけの件数で、実際には数倍の事故が発生していると考えられる。

(3) 事故原因

風による飛入 10 件

ラインカーの横転 5 件

袋からラインカーへの転挿 5 件

ボールへの付着 4 件

ふざけて遊んでいて 4 件

ラインカーの目詰まり点検 2 件

その他 8 件

(4) 消石灰が原因で視力の障害が残った症例の経験は

ある : 18 支部 (38.3%) 98 例

ない : 25 支部 (53.2%)

回答なし : 4 支部 (8.5%)